

## 第4章 施設計画

ここでは、札幌博物館の施設整備について整理していきます。

### 1. 札幌博物館の候補地

札幌博物館は、市民とともに札幌の独自性を明らかにし、その成果を多くの人々に伝えていくことを目指しています。その目的を達成するためには、①できるだけ市民が集いやすく、観光客が来訪しやすい場所にあること、②札幌博物館の基本テーマである「北・その自然と人」を実感できる環境が周辺にあること、③前章で述べた3事業を展開するために必要な規模（広さ）を確保できること一が立地条件になると考えています。

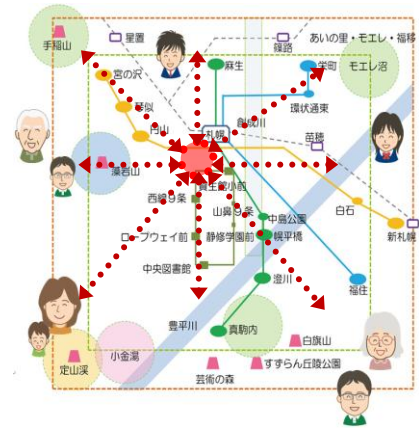
市民・観光客が訪れやすい場所としては、地下鉄札幌駅・大通駅やその周辺地域などの都心部が考えられます。さらに都心部には、地下鉄、市電を利用して「つながり起点（サテライト）」にアクセスしやすいという利点もあります。

また、札幌駅から大通駅、その周辺の西11丁目駅近辺には、かつて豊平川扇状地の湧水（メム）があり、札幌の自然史を垣間見ることができるという特徴があるほか、札幌市資料館（大正15年建設、国の登録有形文化財）や大通公園など、札幌の成り立ちを実感できる歴史・文化資産もあります。大通公園の周辺は、「さっぽろ都心まちづくり戦略」（平成23年1月策定）において「札幌らしさを象徴し、人々の多様な活動を支える空間」とされていることから、札幌博物館の設置に適した地域であると言えます。

さらに、この地域には、将来的に閉館・解体予定となっている「さっぽろ芸術文化の館」があり、跡地活用を図る場合には、その敷地面積は約11,000㎡と、事業展開していく上で十分な広さがあります（必要と想定される規模については後述）。

以上のことから、本計画においては、先に述べた立地条件を揃えている、「さっぽろ芸術文化の館」がある「北1条西12丁目街区」を、札幌博物館の候補地として位置付けます。

なお、施設整備に当たっては、札幌市全体のまちづくりを見据え、有効かつ高度な土地利用を図る観点や施設の集客力向上の観点から、他の公共施設等との複合化を含めて検討していきます。



### 2. 札幌博物館の諸室整備

札幌博物館で行う、感動伝達事業、地域課題解決事業、つながり創出事業は、相互に関連して展開することでより高い効果が見込めます。そのため、札幌博物館の諸室は、この3つの事業を効率的に展開できることを念頭に、機能・配置を検討していきます。

また、ユニバーサルデザイン<sup>14</sup>や自然環境への負荷の軽減に努め、市民がくつろげる、潤いのある空間を目指します。

<sup>14</sup> ユニバーサルデザイン：文化・言語・国籍・年齢・性別・障がい・能力等に関係なく利用できるデザインの思想。

### ①感動伝達領域

#### (展示エリア)・・・常設展示室、企画展示室、特別展示室 等

いつ来ても新しい発見のある展示を目指し、展示内容を容易に更新できる、可変性を重視した構造や設備を検討します。特定のテーマを特集する企画展示室や、民間企業との共催による大規模な特別展示にも対応可能な展示室も整備します。

高齢者や障がいのある方、外国人も楽しめるよう、触れる展示や、点字・多言語による解説などを取り入れるほか、配色、照明等にも配慮します。

#### (普及・交流エリア)・・・講義室、実習室、講堂、作業室 等

市民が博物館で自主的な活動を十分に行えるよう、講義や作業、実習に必要な諸室や設備を整えます。

### ②地域課題解決領域

#### (収集・保存エリア)・・・収蔵庫、特別収蔵庫 等

資料を安全に保管できる適切な環境を確保した収蔵庫を整備します。

また、活動の継続とともに資料が増加し収蔵庫が狭隘化してくることも想定し、将来的な収蔵スペースの増設にも対応できる設計を検討します。

#### (調査・研究エリア)・・・研究室、標本検査室、洗浄処理室 等

専門的な調査・研究活動に対応できる諸室や設備を整備します。調査・研究の利便性を確保するため、収集・保存エリアと隣接した位置に設置します。

### ③つながり創出領域

#### (エントランス・交流エリア)・・・図書閲覧室、ミュージアムショップ、カフェ 等

エントランスには思わず足を止め、見入ってしまうような大型の展示物や最新の情報を提示することで博物館の活動が見えるスペースを用意し、必ずしも博物館を目的にしていたわけではない方も、思わず立ち寄ってみたくなるようなにぎわいの演出を施すとともに、カフェなどを設置して気軽に休憩・交流できる空間をつくります。

例えば、市民からの要望も多い、エントランス展示を観ながらくつろぐことができる「ミュージアムカフェ」や、サッポロカイギュウにまつわる商品など、札幌市立大学などと連携し札幌の独自性をあらわす展示物に関するグッズなどをデザイン制作し、販売する「ミュージアムショップ」などの設置を検討します。

このほか、感動伝達領域や地域課題解決領域もつながりを創出する重要な場となります。

### ④管理・その他領域

#### (管理・共用その他エリア)・・・事務室、会議室、機械室 等

上記の諸活動を支える建物や敷地等の維持管理に必要な諸室や設備を整えます。

### 3. 札幌博物館の規模

札幌博物館の規模については、体長7mのサッポロカイギュウ及び推定15mに達する小金湯産クジラ化石など、複数の大型動物化石の復元標本を展示することが可能な展示スペースや、市民や観光客の憩いの空間あるいは情報提供の場となるサービススペースを広く取る必要があると考えています。

なお、政令指定都市と政令指定都市のある都道府県立の博物館に関するデータは資料7に掲載しておりますが、そのうち、特に札幌博物館の参考となるような、最近開設またはリニューアルした自然史系博物館の延床面積は、下表のとおり10,000～17,000㎡となっています。

今後は、展示の内容や館内で行われる諸活動について、さらに詳細を詰めていく中で、それに合わせた規模や諸室などを検討していきます。

#### 【参考：類似施設の諸室面積の割合】

館名	開館日	延床面積	展示	収集・保存	調査・研究	普及・交流	サービス	管理	共用・その他
北九州市立 いのちのたび博物館	平成14(2002)年 11月3日	17,011㎡	6,139㎡ (36.1%)	2,506㎡ (14.7%)	871㎡ (5.1%)	1,315㎡ (7.7%)	463㎡ (2.7%)	624㎡ (3.7%)	5,093㎡ (29.9%)
大阪市立 自然史博物館	平成18(2006)年 3月1日	12,066㎡	3,831㎡ (31.8%)	1,972㎡ (16.3%)	1,803㎡ (14.9%)	728㎡ (6.0%)	132㎡ (1.1%)	316㎡ (2.6%)	3,284㎡ (27.2%)
三重県総合博物館	平成26(2014)年 4月19日	10,779㎡	2,048㎡ (19.0%)	2,618㎡ (24.3%)	690㎡ (6.4%)	1,620㎡ (15.0%)	78㎡ (0.7%)	435㎡ (4.0%)	3,290㎡ (30.5%)